

令和7年度第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年6月24日（火）午前10時00分から12時00分まで

2 会 場 浜松商業高等学校 応接室

3 出席者 （委員）岡本 雅康 氏（中学校校長）、佐原 司郎 氏（地域企業代表）、
松山 佳典 氏（地域自治会代表）、鈴木 和之 氏（保護者代表）、
渡瀬 吉朗 氏（同窓生代表）、倉本 哲男 氏（学識経験者）
（学校）井口 裕史 校長、袴田 康行 副校長、米本 敦 教頭、
後藤 一弘 事務長、岩下 大祐 教務主任、寺田 玲子 進路指導主事、
寺田 久美子 商業科主任

4 協議内容【発言要旨】＜＞は発言者

(1) 本会の趣旨等の説明 ＜井口校長＞

静岡県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則及び要綱により、本会の趣旨、運営、組織等について説明した。

(2) 会長、副会長の選任 ＜井口校長＞

会長に倉本哲男氏を、副会長に佐原司郎氏を選任することを提案し了承された。

(3) 委員及び関係職員の自己紹介（名簿順に）

(4) 校内視察 ＜岩下教務主任＞

1年生から3年生の教室の授業、特別教室棟、情報処理実習棟の施設を視察した。

(5) 令和7年度学校運営協議会の開催計画 ＜袴田副校長＞

第1回 6/24、第2回 10/3（浜商祭）、第3回 12/8（課題研究発表会）、第4回 2/4の全4回とする予定であることを説明し、了承された。

(6) 令和6年度学校関係者評価及び令和7年度学校経営計画書 ＜井口校長＞

重点取組目標、成果目標の趣旨、項目ごとの評価、学校評議員からの意見等を説明した。

また、令和7年度学校経営計画について、スクールミッション、スクールポリシー及び各取組目標の主なものについて、令和6年度の評価を反映させ策定した旨、説明し、了承された。

（令和7年度学校経営計画）

ア スクールミッション、スクールポリシーの説明

商業4分野や特別活動、部活動を軸に据えた課題解決型学習を通して、国内外で活躍し将来を担っていく人材を育成

イ 取組の説明

客観的に生徒を評価する仕組みの構築、適切な進路選択、交通安全、支援が必要な生徒の適切な情報共有、積極的な広報活動

(7) 令和6年度進路状況の説明 <寺田玲子進路指導主事>

進学及び就職の状況について説明した。

ア 進学の状況

令和6年度は、令和5年度よりも進学者は減少したが、4年制大学への進学者が増加した。指定校推薦が最も多く、次に総合型選抜、公募制推薦、スポーツ推薦の順となっている。令和6年度は、一般入試に挑戦した生徒もいた。

イ 就職の状況

生徒の半数以上が就職する。令和6年度は公務員が増加した。多くの生徒が年内には就職先が決定している。

(8) 商業科関係資格取得状況の説明 <寺田久美子商業科主任>

資格取得の状況について説明した。

- ・ 教育課程のコース選択により、受ける検定が選ばれる。簿記検定は、会計コースの生徒が、情報処理検定は情報処理科の生徒が主に受検する。全商簿記、日商簿記の取得者は減少傾向にある。応用力が必要になってきている。

(9) 学校生活の近況等報告（新聞記事より） <米本教頭>

令和6年度から今協議会までの新聞に掲載された記事について説明した。

- ・ 令和6年度は、水泳部、生産部、吹奏楽部、調査研究部、陸上競技部の活躍が目立った。令和7年度は、ここまでに、調査研究部が浜松市から「青春はままつ応援隊」に認定された記事、高校総体県大会での水泳部の活躍の記事等が掲載された。
- ・ 多くの部活動が東海大会に出場している。全国大会出場を決めている部もあり、今後の活躍が期待される。

5 委員からの意見等

各委員から感想、意見等を求め以下のとおり発言、応答があった。

<委員>

- ・ 学校評議員から関わっているが、例年、生徒がまじめに授業に取り組んでおり、感心させられる。
- ・ 生き活きと生活している生徒が多いと感じるが、困りごとを抱える生徒はいないのか。中学校では不登校生徒が増加傾向である。自分で通う高校を選んで目標を持って学んでいる生徒が多いと思うが、高校生の困りごととはどんなことなのか、浜商の状況を聞きたい。

<井口校長>

- ・ 困りごとを抱える生徒の把握と適切な対応については学校を上げて取り組んでいる。人間関係の悩みが多い印象で、スクールカウンセラー等の専門家に相談することもある。
- ・ 生徒の情報は必要に応じて教員間で共有しており、きめ細かな対応に活かされている。

<寺田久美子商業科主任>

- ・ 教員間で情報共有ができていて、個々の対応がやりやすくなっている。

<米本教頭>

- ・ 生徒に何かあれば、教員間で対応について話し合いができる環境ができています。

<委員>

- ・ 今年度の1年生は定員を上回る人数が入学しており、教室に活気が感じられた。
- ・ 授業のやり方が、プロジェクターやパソコンを使っていたり、グループワークを行っていたりと、昔の板書を書き写すような授業から変わっている。教員の授業準備が昔より大変になってはいないか。
- ・ 部活動で多くの実績を挙げている。部活動の在り方は、今、世間でも課題となっており、今後の浜商の部活動の方向性を聞きたい。
- ・ 浜商を卒業すれば簿記ができる印象があるが、どのくらいの生徒が簿記の検定を取得しているのか。

<寺田久美子商業科主任>

- ・ 簿記について、1年生は授業で5単位学習する。日商簿記検定3級レベルの学習となる。全商簿記検定2級を1年生全員が取得する。情報処理については、全商情報処理2級を1年生全員が学習する。
- ・ 授業準備については、教員間で同じ教材を使うなど、同じ質、レベルで学習ができるように工夫している。現在の教育課程になって3年経過しており、ここまでにストックした教材を少しずつ改良しながら利用している。

<井口校長>

- ・ 教員間で共通の教材を使うことで省力化になっている。
- ・ ICTの活用で、教材の共有が簡単になり、準備は楽になってきた。教員がICTの活用に慣れてきたこともある。
- ・ 部活動に関しては、難しい問題と感じている。浜商では部活動が学校の大きな魅力の一つであり、これを活かしていく方向であり方を模索していきたい。生徒がやりたいことを3年間、思い切りできる高校でありたい。

<委員>

- ・ 子供たちが気持ちよく挨拶をしてくれる。まじめでいい生徒が多いと感じた。
- ・ 気になったところとしては、校内の清掃は誰がやっているのか、ところどころガラスの汚れや共有スペースにほこりが目立った。
- ・ 散歩などしていると浜商生とよくすれ違いますが、自転車の乗り方が気になる。自治会でもグリーンベルトの設置や速度取り締まりを警察に要望するなど、地域の交通安全に取り組んでいる。生徒も自転車の事故が無いように交通ルールを守るよう取り組んでほしい。

<井口校長>

- ・ 清掃は教員と生徒で行っている。今後も校内美化に努めていきたい。
- ・ 生徒の交通安全の意識を高めていく指導も充実していきたい。

<米本教頭>

- ・ 朝の登校時間帯に教員が道路に立って指導している。人手が足りないところもあり、地元の方たちの御協力があると助かる。

<委員>

- ・ 生徒たちが自主的に学ぶ姿勢があるように感じた。スクール形式で教員の説明を聞くだけの授業ではなく、グループディスカッションなどがあり、今の授業の形態を見ることができた。協議会の一員となり、生徒たちの様子を直に見ることができ、貴重な体験ができた。
- ・ P T Aの役員としても保護者の目線で浜商に関わる機会があり、またO Bとしても、部活動の応援や浜商のバックアップをしていきたいと考えている。

<井口校長>

- ・ 今の生徒は、小学生の時からグループワークを行っていて鍛えられているが、しっかりとグループワークができるのは、生徒間のコミュニケーションや信頼感があるからだと思う。教員の指導も、I C T活用も含めてうまく進めてくれている。

<委員>

- ・ 生徒の困りごとへの対応を重点としているところは、とても素晴らしいことだと感じた。困りごとの情報は、生徒と教員の信頼関係がないと上がってこない。
- ・ 自分の子供が高校生の時に、部活動のことで悩んでいたが、担任の先生が親身になって話を聞いてくれたりアドバイスをくれたりして、無事に卒業できた。今の先生たちも信頼関係を持って対応してくれていると感じた。
- ・ 進路に関して、商業科と情報処理科の進路先の傾向があるか知りたい。例えばC A Dを扱える人材のニーズが企業ではあるが、こういった学習を取り入れる挑戦などがあるのか知りたい。
- ・ 体験入学の希望が昨年の1.5倍もあるのは、S N Sの活用や、部活動の活躍の紹介など、広報活動の成果であると思う。

<寺田玲子進路指導主事>

- ・ C A Dを直接教えることはないが、パソコン操作に慣れた状態で入社してくれれば、C A Dは入社後に学んでくれればよいと言ってくれる企業が多い。情報処理科の生徒は進学希望者が多い傾向がある。就職希望の一番人気は事務職であるが、学科によつての職種の違いはあまりなく、進学か就職かの違いが大きい。

＜寺田久美子商業科主任＞

- ・ インスタグラムを今年度から始めた。生徒たちの反応も良く、積極的に協力してくれる。職員も情報を提供してくれるので、今後、充実させていきたい。

＜井口校長＞

- ・ 中学校で商業科の出前体験授業を行っており、商業の魅力を知ってもらう機会となっている。将来につながる学びがあることが伝わっていると思う。

＜委員＞

- ・ 教室で純粋に勉学に励む生徒の姿に感心した。こういった姿勢は年々積み上げられて形成されるもので、こうした指導が大事であると感じた。
- ・ 授業ではタブレット端末が活用され、グループディスカッションも活発に行われていた。生徒同士で学び合うことができている。カリキュラムと実践がかみ合っていると感じた。
- ・ 学校経営計画において、「適切な進路選択ができたと感じた生徒の割合」という目標を設定したことは、視点の転換であると感じた。こういう目標の基にカリキュラム体系が作られ、アウトプットにおいても進学、就職がバランスよくデータに表れている。100%の生徒が、適切な進路選択ができたという思いで卒業していったと拝察した。
- ・ 大学教育でも高校生のこういった姿を参考に磨いていきたい。

6 閉会

すべての議題が終了し閉会となった。